

「主体性」の育成 ③

世界に生きる

人材を育てる

グローバル化社会の中での「ローカル」に焦点を当てた12月号に続き、

今号では、国境を超えたより広い世界、すなわち「グローバル」に生きることを取り上げる。

主体的に「世界に生きる」とはどういうことか。実際に活躍している人たちの生き方を通して、

世界に生きるための力と、その育成のための高校での指導について考える。

グローバル化の中での
人材育成を

教師はどう考えているか？

「『社会に出た時のために』とよく言うが、その『社会』は、まだまだ『日本社会』だ。まず、私たち教師の視点をグローバル化しなければならぬ」(京都府)

「地元の中小企業でも、生き残りのために海外進出をしている。このような現実を見ると、生徒に世界標準を意識させると同時に、日本人のアイデンティティを再確認させるような指導が必要だと思う」

(静岡県)

「違う価値観の人と、どう折り合いをつけていくのかを学ばせるのは、海外の人との交流が大きなきっかけになると思う。それが身近な人とのコミュニケーション力にもつながるだろう。多様な価値観との出会いを多く持たせたい」(岡山県)

出典：『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは2012年8月にWeb及び用紙の郵送により実施。回答はWebもしくはファクスで回収。有効回答数は71。

8月号で見てきた、社会の環境変化に立ち向かうために必要なこと
「主体性」の育成

本号のテーマ

グローバル化社会で、主体的に「世界に生きる」ために
 必要な力と、その力を育む指導とは？

1. 「世界に生きる」ために必要な力とは？ ▶ 3人の生き方から考える P.8～15

「知恵と思いやりの心で、外国の人と新しい価値をつくり上げていくこと」
 ハバタク株式会社 取締役・アジア地域統括  おはら たかひこ 小原祥高



「価値観の差異に好奇心を持ち、対話をする姿勢」
 国境なき医師団 アドミニストレーター つじが あやか 辻坂文子

「ローカルな本物の体験を通して身に付く、多様な価値観と向き合う力」
 「ナガサキアイランズスクール・小さな世界学校」代表 おせき さとし 小関 哲 

2. 「世界に生きる」人材を育むための指導とは？ ▶ 学校現場から考える P.16～19

「固定化された『グローバル人材』のイメージを、教師が問い直す」
 山形県立米沢興譲館高校 こうじょうかん わたらい 渡會朋和 

「やってよかったという体験を積み重ねて、世界に飛び出す力を付けさせる」
 高知県・私立土佐塾中学・高校 ふせき たくし 藤澤佑介 

生徒にとって、「世界に生きる」ことの捉え方が変わり、主体的に生きる選択肢が広がる

8～2月号の特集では、社会環境変化の中での「主体性」の育成について取り上げました

8月号
 環境変化に立ち向かう
 「主体性」を育む

ポイント
 デジタル化、グローバル化
 する環境においては、「主体
 性」の育成が重要

10月号
 「分かる」授業の追求で
 学びの「主体性」を
 引き出す

ポイント
 デジタル機器を活用すること
 で、指導や学びの質が高ま
 り、生徒が自ら学びに向かう

12月号
 地域に生きる
 人材を育てる

ポイント
 教師が視野を広げ生徒と対
 話することで、地域を創る生
 徒が育つ

2月号
 世界に生きる
 人材を育てる

ポイント
 日本人らしい世界での生き
 方を伝えることで、生徒と
 「世界」の距離が縮まる

- ◎生徒の主体性を育むには、教師の視野を広げることが大切。
- ◎デジタル化、グローバル化の進む社会環境は、このための追い風となる。